学校番号	121

令和３年度　国語科

教科	国語	科目	現代文Ｂ	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	明解現代文Ｂ　改訂版（三省堂）						
副教材等	常用漢字オールクリア（尚文出版）、別冊徹底トレーニングノート（尚文出版）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・２年次の「現代文Ｂ」で学習した内容をさらにより深く作品を理解しましょう。
・作品の理解を深めたうえで、意見や考えをことばや文字で表現できる力を養いましょう。
・作品内の語句などの意味を理解し、知識を増やしてゆきましょう。

２　学習の到達目標

近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語力の向上を図り人生を豊かにする態度を育む。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:話す・聞く能力	c:書く能力	d:読む能力	e:知識・理解
観点の趣旨	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞き取ったりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させることができている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。
評価方法	取組みの状況 提出物 学習状況の観察 ノートやワークシートの記述	取組みの状況 学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 授業内における行動	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期考査	学習状況の観察 ノートやワークシートの記述 定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点					単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d	e		
1学期	随想	教材: 「春の小川の思い出」	○			◎	○	a:随想に表れた筆者の心情やものを見る視点に関心をもち、理解を深めようとしている。 d:本文の要旨を読み取り、まとめている。 e:文章における主語と述語の照応を理解し、適切に文章を書くことができる。	a:行動の観察 d、e: 記述の確認及び定期考査
	詩歌	教材: 「ユメカサゴ」	○	◎			○	a:詩に内在するリズムや、詩から感じ取られる情感を工夫して表現し、朗読しようとしている。 b:美しい熱帯魚たちと比較して描かれた詩の中の「そいつ（ユメカサゴ）」の姿から、ユメがどのようなものとして考えられているかを読み取っている。 e:詩の中の語の表記や詩のリズムなど、表現上の特徴を捉えている。	a:行動の観察 b、e: 行動の分析及び定期考査
2学期	評論	教材: 「十五歳の東京大空襲」	○		◎	○	○	a:東京大空襲という社会的なできごとを現実に経験した人間の視点から、そこで生きる人間の姿がどのようなものであったか関心をもち、捉えようとしている。 c:筆者の具体的な経験の叙述と、そこで感じた思いを整理し、戦争というものにどのように向き合うのか、自分なりの考えをもち、文章に表現している。 d:東京大空襲という歴史的なできごとがどういうものであり、そこに生きた人間が何を感じ、どう捉えているのかを理解している。 e:句読点や記号、改行、段落、数の表記の仕方など、原稿用紙の書き方の基本的な規則を理解している。	a:行動の観察 c、d、e: 記述の確認及び定期考査
	小説	教材: 「山月記」	○			◎	○	a:中国の古典を基にした虎への変身譚のおもしろさがどのようなところにあるのか、理解しようとしている。 d:主人公・李徴が苦悩し、破滅し、再会した旧友に自らを語ることにより、自己をみつめ、変貌する姿を捉えている。 e:敬語の表現について理解し、適切に使うことができる。	a:行動の観察 d、e: 記述の確認及び定期考査

3学期	小説	教材: 「ピクニックの準備」	○			◎	○	a:登場人物たちの特殊な関係と、それぞれが抱いている思いについて、整理して捉えようとしている。 d:特殊な関係の二人の主人公とその友人の三者が、どういう状況でどんな思いを抱いているかを、叙述にそって捉えている。 e:日常生活で用いられる慣用句の意味を理解し、適切に使うことができる。	a:行動の観察 d,e: 記述の確認及び定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　b:話す・聞く能力　c:書く能力
d:読む能力　e:知識・理解

※　評価の観点のうち「関心・意欲・態度」と「知識・理解」については、すべての単元に位置付けて○印を、また、その単元で主として扱う国語の領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）に関わる観点には◎を付している。